

地域を知ろう(34)

民話・伝説

No.14 蛇窪

蛇窪というところ

この地域の中でかつて俗名で呼ばれていた処をあげてみましょう。

それは“蛇窪”です。なんとも気の悪い名ではありませんか。こんないやな名前がついていたところとは、妙法寺通り呼ばれていた道筋で、今は山手ストアーなどがある通りです。ここを中野の方へ進んでゆくと昔の旧地、今は区立和田保育園の前を通り東へ、やがてゆるやかにカーブをして下り坂となっていて行きます。

そこは和田の六十二、その反対側は中野区との区境にあたります。和田三丁目の古い一人は「坂を下りきると左手に小径があり、三抱えに沿って二、三抱えもあるうかと思われ、櫛が十数本そり立って数本窪地で湿地帯だ、窪地は根一本帯に茅などが生い繁っていました。

そのため蛇の絶好の棲家とぐるりを巻き、鎌首をもたげ舌をペロペロと左右上下に振り気味の悪い姿態をさらけ出しています。」と回想しています。



いたそうで、この名の方が蛇窪よりは聞かえがいい名だったでしょう。もう一つ考えられるのは、この辺りが蛇のようになっ

きつと妙法寺道を通って堀ノ内のお祖師様にお参りに行く人達も気味悪く足早に歩いたことでしょう。またこの辺りは北側が台地に囲まれた小谷地であったり湧き出ているので人々の中には“清水窪”とも呼んで

的にも蛇の名が付けれられたのかも知れません。今は櫛の大木も伐られ、湿地も埋め立てられたりして蛇等も棲家を奪われてしまっている。窪や清水窪という名前は遠い昔の話となっていて、人なりませんでした。